課題解決に向けた行動計画

東京都　　武蔵野赤十字病院

2023年度
第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
武蔵野赤十字病院	赤司　雅子（医師）
	大川　真央（医療ソーシャルワーカー）
	川手　未央（看護師）

令和５年度　第２回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

武蔵野赤十字病院

日本赤十字社
公式マスコットキャラクター
「ハートラちゃん」

①地域の課題

病院、地域ともにフィードバックしあえる機会がない。
そのため、行った連携・調整の評価ができずに次に生かすことができない。連携が一方通行になりがち。

②どのような地域を目指すのか

入院から在宅まで切れ目のない緩和ケアが受けながら暮らしていける地域

③目指す地域を実現するために取り組むべきこと

・一方通行になりがちなコミュニケーションから退院後も
双方向でコミュニケーションできる機会の設定

・二次医療圏で考えると規模が大きすぎるので、まずは武蔵野市内から、施設を超えて実務者レベルが話し合える場の設定。顔の見える関係づくりを促すため参集で行なえるようにする。

④具体的な行動計画　⑤目標達成時期

項目	主担当者	時期	方法
地域緩和ケア連携調整員としての活動計画を立案して緩和ケアセンター長と医療連携センター長とのコンセンサスを得る。	川手	令和5年度中	医療連携センター管理会議で提案する。
武蔵野市内でどのような地域連携に関する既存の会議があるのか把握する	大川	令和5年度中	地域の関係各所に確認する。
既存の会議を把握したうえで、参画できる会議がないか検討して交渉する。	全員	令和6年夏までに	全員で検討して医療連携課長に相談する。
緩和ケアセンターで開催している地域の先生方との情報共有の会を活用して院内外の多職種が参加できる会にする。	赤司 緩和ケアセンターと協働	令和6年度から	まずは院内の多職種が参加できるよう緩和ケアセンターで企画する。